

# 多様な背景のメンバーのプロジェクトにおけるコンフリクト課題の抽出 —オープンイノベーションの遂行のためのコンフリクトマネジメント手法の 提案に向けて—

丸山大輝 (まるやま だいき)  
三好きよみ (みよし きよみ)  
東京都立産業技術大学院大学

## 1. はじめに

この度は、優秀萌芽研究賞に選んでいただき、ありがとうございました。大変光栄に思っております。当日は多くの方に発表を聴いていただき、構想段階の研究に対して非常に貴重なご意見やコメントをいただくことができました。このようなディスカッションの機会を提供してくださった経営情報学会2022年度年次大会運営委員の皆様、また、日頃から研究内容や進め方についてアドバイスをくださる指導教員の三好先生、インタビュー調査への協力や発表への助言により支えてくださったPBL (Project Based Learning の略、詳細後述) チームのメンバー、ならびに今回の発表に対して貴重なアドバイスやフィードバックをくださった全ての皆様に、研究チームを代表して、この場を借りて深く御礼申し上げます。

## 2. 本研究の概要

企業を取り巻く環境の激化を背景に、組織内部でのイノベーションを促進するために、内部と外部の技術・アイデア等の資源の流出入を活用する「オープンイノベーション」が注目されています。オープンイノベーションの遂行においては、背景が異なるメンバーとプロジェクトチームを組むケースがほとんどで、そのような中で発生するコンフリクトをどのように効果的に解決していくかということが課題の一つとして挙げられています(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構・オープンイノベーション・ベンチャー協議会, 2016)。

この研究の目的は、オープンイノベーションの遂行を支援するために、効果的なコンフリクトマネジメント手法を提案することです。この目的を達成す

るために、オープンイノベーションの遂行において組成される「多様な背景のメンバーで構成されたプロジェクト」に着目し、そこで発生するコンフリクトについての調査および分析を行っています。

## 3. 現在の研究状況と今後の研究計画

今回の発表では、現状の課題や関連研究を整理し、「多様な背景のメンバーで構成されたプロジェクト」経験者へのインタビュー調査の結果を報告しました。現在は、年次大会においていただいたフィードバックを参考に、「同質性の高いメンバーで構成されたプロジェクト」について調査、および分析を行っています。両者の分析結果を比較することで、「多様な背景のメンバーで構成されたプロジェクト」特有のコンフリクト発生要因や解消要因の抽出を図っていきます。

## 4. チームでの研究のやりがい

筆者が所属するPBLチームは全員が社会人です。年齢は20代から40代、所属企業は、IT、医療、金融、製造などさまざまです(図1)。このPBLの活動は、まさに本研究で題材としている「多様な背景のメンバーで構成されたプロジェクト」の実践です。

このような環境では、さまざまな視点や価値観に触れることができ、研究を進めていく上で参考となる、さまざまな状況に直面することが多々あります。例えば、視点や価値観の違いによりコンフリクトが発生し、合意形成に時間を要したりすることもあります。このような日々のチームでの研究活動の中で発生する1つ1つのコンフリクトが、今回の研究とつながっています。それらを体感しながら研究を進められることで、非常にやりがいを感じます。



図1 PBLチームのメンバー(筆者は後列左端)

## 5. おわりに

社会人大学院生として、通常の業務を行いながら研究を進めることは容易ではありません。ただし、通常の業務と並行して研究を進めるからこそ得られる気づきや学びが多々あります。また、研究の成果を所属する企業で実践につなげることができることも、社会人大学院生の強みであると考えています。社会人大学院生という立場を最大限活用しつつ、今回の受賞を励みに、今後も研究活動に前向きに取り組んで参ります。そして、見識を深めるとともに、企業や社会に貢献できるような成果を出せるよう、尽力して参ります。今後も引き続きご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 6. 指導教員からのコメント(三好きよみ)

東京都立産業技術大学院大学は、ビジネスモデルの創造、IT、デザイン&エンジニアリング分野など産業技術分野の高度専門職業人を育成する専門職大学院です。平成18年4月に開学しました。

学生の多くは社会人で「PBL (Project Based Learning) 型教育」が特徴です。通常の研究型大学院で必須とされる修士論文は課しません。その代わり2年次の1年間がPBLに費やされます。実務レベルの内容・規模のプロジェクトを1年間かけて実施することにより、高度専門職人材に必須の知識・スキル・ノウハウを獲得できるようにしています。

最終的な成果物も重要ですが、実際の業務の内容に近い1つのプロジェクトを完成させていくプロセスの中で、実践的で真に役立つスキルやノウハウを修得していただきたいと考えています。

## 参考文献

- [1] 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構・オープンイノベーション・ベンチャー協議会「オープンイノベーション白書(初版)」2016年。
- [2] 東京都立産業技術大学院大学「教育の特色」、<https://aiit.ac.jp/education/>(最終閲覧:2022年6月30日)

## 略歴

### 丸山大輝(まるやま だいき)

2018年3月名古屋大学教育学部人間発達科学科卒業。  
2018年4月大手金融機関に入社。2021年4月より、東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科産業技術専攻情報アーキテクチャコース在学中。

### 三好きよみ(みよし きよみ)

2018年3月筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士後期課程修了。博士(システムズ・マネジメント)。現在東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科教授。